

# 木野評論

KINO REVIEW

KYOTO SEIKA  
UNIVERSITY

1996

27

●巻頭冊談●

「自己」と他者をめぐる「まなざし」◆崔洋一+安珠+鈴木隆之

「レコード目玉」の考察◆牧野圭一 地のまなざし◆金満里 「死体写真」のフィクションとリアル◆布施英利

闇を映すまなざし◆柏原えつとむ 再構成されるまなざし 死角の亀裂と運動◆伊藤俊治

障害者にもけられるまなざし◆勝山広子 Through the Eyes of A Rice Queen: Beauty, Love and Eye Contact ◆ケネス・ジョン・ブレニマン

ゲームとしてのまなざし◆多木浩二 街なかの女性ヌード彫刻◆桂谷子+のひな利子

【特集】

まなざし

その社会性と芸術表現

◆特集 まなざし その社会性と芸術表現

巻頭鼎談

「自己」と他者をめぐる  
「まなざし」

◆ 崔洋一・安珠・鈴木隆之

二〇世紀の終わろうとする現在、私たちの「まなざし」はもの見  
方・見られ方は、一九世紀的（さらにさかのぼれば一八世紀的の  
もの、つまり近代のそれ）なものを基本的に引き継いでいるといえよ  
う。現代は、こうした「近代」が様々なところで現にほころび、変化  
し、あるいは変容を迫られている状況にあるのではないか。二一世紀  
をまじかに控えた現在、あらためて「近代」がつくりあげてきた  
「まなざし」を多面的に問い直す必要があるのではないか。マイノリ  
ティーの視点（第二世界、女性、障害者、ゲイ・レスビアン等）も、  
その作業にとって不可欠のものではないだろうか。たとえば、芸術  
表現もその角度から問い直してみる必要があるだろう。

「レコード目玉」の考察 ◆ 牧野圭一

地のまなざし ◆ 金満里

「死体写真」のフィクションとリアル ◆ 布施英利

闇を映すまなざし ◆ 柏原えつとむ

再構成されるまなざし 死角の亀裂と運動 ◆ 伊藤俊治

障害者にむけられるまなざし ◆ 勝山広子

Through the Eyes of A Rice Queen: Beauty, Love and Eye Contact ◆ ケネス・シモン・ブロンリマン

ゲームとしてのまなざし ◆ 多木浩一

街なかの女性ヌード彫刻 のひな利子さんの写真コレクションから ◆ 桂容子・のひな利子

◆ 本学所蔵資料紹介 4  
モンゴル書道芸術作品 原山 煌

アセンブリー・アワー

これから「生きる」ために、今できること 上田恭子

発見！「ライバルは私である」 上地みか

対話する建築 梅沢伸子

アセンブリー・アワーから 今春大介

◆ KINO GALLERY

新井清一

池垣タダヒコ

大路浩美

櫻井靖子

◆ きのむらつうしん

融通自在の女人像 笠原芳光

薬害エイズのこれから 京都精華大学 薬害エイズを考える会

一月一七日にはじまって 日野 靖

もう一つの京文化 堤 邦彦

京都精華大学の新施設 金 演熙・倉科郁子

木野は秋雨に濡れて 山内亮史

◆ KINO ESSAY

小さな作品 稲浦嘉穎

模倣する者 模倣される者の視点 桑原昌宏

学生懸賞論文

「AKIRA」より

人類の未来及び進化の行方 俵谷淳史

若者の見た世界

街角の人々

浅野祐子 石内和宏 稲垣有

坂梨あやこ たかぎともたか

俵谷淳史 松井貴代

Kino Column

トルコ旅行雑感 荒岡興太郎

書評

自著を語る

個展・展覧会

編集後記



○アート・ディレクション：坪内成晃  
○デザイン：大杉泰正・十谷浩志・十間賀部吉孝  
この木野評論はDTPによって制作しております